

②教職員からのおすすめ本一覧

書名	著者名	出版社名	キーワード	紹介メッセージ
夜のピクニック	恩田 陸	新潮社	青春	24時間かけて80kmを歩く高校の伝統行事「歩行祭」。3年生の甲田貴子は、最後の歩行祭に、自分の中で賭けをした。それは、クラスメイトの西脇融に声を掛けるということ…。貴子(女子)視点と融(男子)視点とで物語が進むので、男女ともに楽しめると思います。すてきな青春が描かれた、一緒に歩きたくする一冊です。
街場のメディア論	内田 樹	光文社	メディア	メディア(テレビ・新聞・書籍など)を中心に、現代の様々な問題をわかりやすく論じる。入試問題にもよく用いられる筆者の作品は、一冊は読んでおこう。
文豪たちの関東大震災体験記	石井 正己	小学館	天災	大正12年(1923)9月1日は大正関東地震(関東大震災)が発生した日です。理科の教員としては科学的に地震について考えてもらいたいところですが、この本は被災された当時の文豪や画家たちの体験記を紹介する本です。地震や防災について勉強することは、現象を理解することだけでなく、それぞれの時代や場所に生きている人々の生活や文化も考えていく必要があります。「天災は忘れた頃にやってくる」地球物理学者であり文学者の寺田寅彦(てらたらひこ)の残した言葉です。文学と地学って関係が深いんだなぁと思わせてくれる一冊です
はらだしき村	原田 宗典	集英社	ユーモア	武者小路実篤と小林秀雄を崇拜する岡山操山高校出身の原田宗典が書いた、読みやすく笑えるエッセイ集。親孝行の話と、小林秀雄の桜の話がとてよかった。川口松太郎が書いた小林秀雄の追悼文を読んで、山梨県の白樺美術館に移植された小林秀雄の桜を是非、見に行きたくくなりました。『劇場の神様』もお勧めです
ドーナツを穴だけ残して食べる方法 越境する学問—穴から除く大学講義	大阪大学 ショセキカブ プロジェクト	大阪大学出版会	学ぶ	「ドーナツを穴だけ残して食べるには？」ドーナツを食べてしまったら、穴どころか何も残らないのでは？この変な問いに、大阪大学の学生×教員×出版会が、理系・文系の垣根を越境して、ガッツリと取り組んだプロジェクト。いずれにしても、「常識を疑う」「学問は既成の価値観の破壊だ」という大学の基本姿勢を教えてくれるよ。大学がとてつもない破壊力のある磁場だとわかるだろう。
デジタルは人間を奪うのか	小川 和也	講談社	近未来	私は映画好きである。「ターミネーター」「マトリックス」などに描かれたコンピューターやロボットが人間を超え、人間を支配する時代がやってくる…。そんな未来はまだ先だと思っていたが、現実は今もすぐそこまで来ていると実感させられるのがこの本。コンピューターが人間の脳を超えたとしたら、人間の存在意義はどこにあるのか。この本を読んでしっかり考えてほしい。
自分の壁	養老 孟司	新潮社	グローバル化	グローバル化は、インターナショナル化とは違う。これからの10年は、混迷するでしょう。そんな混迷の10年間のために、いかがでしょう！
国家の品格	藤原 正彦	新潮社	生きる	著者は、私の尊敬する数学者です。タイトルからは固いイメージを受けますが、中身は非常にあっさり読めて、日本人であることに「もつと誇りを持たなければ」と思える本です。自分の中に毒が溜まってきたときに読み直す、私のバイブルです。ぜひ、一度、読んでみてください。数学の本ではないですよ(笑)
考える力が身につくディープな倫理	富増 章成	KADOKAWA	学問	「倫理」って科目は、結構「国語」の評論と関係が深い科目らしい。センター試験「倫理」や二次試験の過去問を、哲学的におもしろく解説してくれているよ！
外事警察	麻生 幾	幻冬舎	ドラマチック	決して世に知られることなく秘匿で活動し、時として任務のためには手段を選ばない警視庁公安部外事第4課。対国際テロ捜査の精鋭部隊である彼らとテロリストとの壮絶な情報戦・駆け引きを描いた作品です。ドラマとは異なる内容で、こっちは、二転三転する展開、国際政治に対する風刺、清々しいまでの目的のためなら手段を選ばない姿勢、と飽きさせない作品です。
面白い本	成毛 眞	岩波書店	本の本	読みたい本がない、とお嘆きのあなたのためのブックガイドである。筆者は堂々と、紹介した本を「全部読んだところで賢くなるわけではなし、何かの役にたつわけでもないかもしれない。」と宣言。しかし「結局ただの本読みになるかもしれない。けれども、たぶん、それがいいのだ。」と締めくくる。面白さは折り紙付きの本ばかり。とにかく一冊読んでみようという気持ちにさせられることはまちがいない違い。
3ヶ月でフルマラソン	金 哲彦監修	NHK出版	マラソン	最近全く走っていないが、何年か前までは時間を見つけては少し走っていた。ただ私はランナーではない。ジョガーである。当時、少ない練習でいかにフルマラソンを完走するかを真剣に考えていた。ある日、某テレビ局の「ランスマ」を見ていたときにこの本が紹介され早速購入。ハーフマラソンを練習3日で完走する為に熟読。走る時間より読む時間の方が明らかに長かった。(笑)大会1週間前からの食事方法が唯一のトレーニング(?)であった。「カーボローディング」この言葉に出会ったのもこの本である。うどんばかり食べた。その甲斐あってか、走りは快調。優勝?と思われたが、残り3キロで足が重い。んーっ、食事トレだけではさすがに無理かと思いつつながら何とか制限時間10分前にゴール。完走後の「牛串」は最高でした。
スキップ	北村 薫	新潮社		一ノ瀬真理子、17歳。高校二年生。ある日の夕方、部屋で一人、うたた寝してしまい、ふと目を覚ましたら…。桜木真理子42歳。高校国語教師。突然、時間を飛び越え、「skip」してしまった真理子。彼女は生き、どうしていくのか？真理子の手探りの人生が始まる…。
長距離走者の孤独	シロト	新潮社	労働、苛立ち、爽快感な孤独	表題作を含む8編が収められた短編集。全編に貧困が漂います。表面的ではない筋金入りの不良少年からハングリー精神と人間の矜持について語られたような不思議な爽快感を得られます。何よりきれいなことが書かれていないところに好感もてる作品です。格差社会に生きている現代社会の人々にも共感できる場所があるのではないのでしょうか。主人公の言葉「最後には勝ちたい」。日々に悩み、己に勝利する物語。
裁判官の爆笑お言葉集	長嶺 超輝	幻冬舎	メッセージ	実在の裁判官の判決言い渡しの際に、判決を受けた人にあててかけられた言葉が集められています。ページの左側には、裁判の内容が簡単に添えてもあり、中には記憶に新しいものもあります。裁判官の短い言葉の内側に、テレビや新聞等で見聞きした情報とは違う、生々しい人間の営みを感じました。繰り返される思いに任せないかもやした日々への解決のヒントが、ここで見つかるかも知れません。
十二国記シリーズ	小野 不由美	新潮社	成長	この本を初めて読んだとき、自分自身も学生で、とにかくおもしろいと思いました。ファンタジー作品だけれど、登場人物の内面や心情の移り変わりに感情移入し、すぐ考えさせられる部分も多いです。シリーズを通して、どの登場人物も魅力的で、世界観もすてきだと思います。高校生のみさんと同世代の主人公も出てくるので、ぜひ一度読んでみてください。大人になってから読み返しても、とてもおもしろいです。
新編 銀河鉄道の夜	宮沢 賢治	新潮社	生き方・幸せ	孤独で貧しい少年ジョバンニが、銀河鉄道に乗って夜空の旅をする物語。本当の幸いとは何かを考えさせられる美しい言葉の数々に、心が洗われる作品です。「なにがしあわせかわからないです。ほんとうにどんなつらいことでもそれがたたいいみちを進む中でのできことなら峠の上りも下りもみんなほんとうの幸福に近づくとあしすつですから。」の一文に救われました。「未完成」というのも、この作品の魅力のひとつのような気がします。
そのときは彼によろしく	市川 拓司	小学館	ファンタジー	眠るとだんだん起きられなくなる奇病の人気モデルとアクアショップの店長のちょっぴり切ない恋の物語。作者の市川拓司さんの不思議な世界観に引き込まれる作品です。
ことばと文化	鈴木 孝夫	岩波書店		「ことばというものが、世界をいかに違った角度、方法で切りとるものか」英語学習の際、誰しもが感じる違和感の理由を教えてください。一冊です。
狼と香辛料	支倉 凍砂	アスキー・メディアワークス	ファンタジー・ライトノベル・経済	ライトノベルです。いつの時代か、どこの世界かわかりませんが、行商人が主人公です。一緒に旅をすることになった少女……。？に振り回される主人公がなんとほのぼのとしています。経済に関心のある人は併せて『狼と香辛料で面白いほどわかるお金のしくみ』(永濱利廣著・KADOKAWA)も読むといいと思います。
夢をかなえるゾウ	水野 敬也	飛鳥新社	生き方	ダメダメな僕のもとに突然現れたゾウの姿をした神様「ガネーシャ」。なぜか関西弁で話し、とてつもなく胡散臭い神様だけれど、その教えは心に刺さる名言ばかりです。
博士の愛した数式	小川 洋子	新潮社	人間愛	高校生の時に読み、数学の見方が変わり、嫌いだなという気持ちから「数学っておもしろいな」と思うようになったきっかけになった本です。映画化もされていますが、小川さん独特の文章による世界観も魅力的です。ぜひ読んでみてください。
海賊と呼ばれた男	百田 尚樹	講談社	日本人としての品格	敗戦後、石油を武器に世界を相手に闘った男たちがいた。今日の日本があるのは、こういう人たちのおかげだと思わずにはいられない一冊。
働き方「なぜ働くのか」「いかに働くのか」	稲森 和夫	三笠書房	働く	タイトルは「働き方」とありますが、学校生活、部活、日頃の生活の中でうまくいかないなぁと思ったときに、読んでみると気持ちがスッキリしたり、気づくことがあるかもしれません。気になるページから読んでみてください。
ネシャン・サーガ	ラルフ・イーザウ	あすなろ書房	旅	伝説の杖ハジェヴェトを携え、旅に出るヨナタン。その旅を見守る車いすの少年ジョナサン。ネシャンを開放する二人の冒険はハラハラドキドキの連続です。読後は前向きな気分になります。
それからのエリス—いま明らかになる 鷗外『舞姫』の面影	六草 いちか	講談社	エリス発見!	森鷗外の『舞姫』の主人公エリスのモデルとなった人物を探し出した本。今までエリスのモデルとなった女性は謎が多かったが、ドイツ在住の筆者の細かな調査により写真まで見つかった。ミステリー小説のような面白さがある。
しずく	西 加奈子	光文社	家族	飼い主の恋人同士と一緒に暮らし始めて出会った二匹の猫。わがままな猫同士の友情は続くのか？短編集で読みやすいです。